

地域医療学

1 構成員

	平成21年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	2人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	3人

2 教員の異動状況

山岡 泰治（特任教授）（H19. 10. 1～H20. 7. 31 特任准教授；H20. 8. 1～現職）

古本 尚樹（特任助教）（H20. 5. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件（0万円）
(2) 厚生科学研究費	0件（0万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件（0万円）
(4) 財団助成金	0件（0万円）
(5) 受託研究または共同研究	0件（0万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件（0万円）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

古本 尚樹：自治体合併による医療への影響と提言，第15回ファイザーヘルスリサーチフォーラム（東京都），2008年12月

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

11 受賞

(3) 国内での受賞

古本 尚樹：日本総合医学会健康小論文優秀賞（2009年12月）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 中東遠医療圏における集団災害発生時の連携体制の構築に関する研究

突発的な災害の発生に対して限られたマンパワーや医療設備・資機材を使って効率的かつ適切な医療サービスを提供するためには、有機的に連携できる人および組織の整備が欠かせない。さらに、こうした連携体制を構築するにあたっては、地域の特性を踏まえ、現有資源を活かすことが大切である。

こうした観点に立ちながら、研究対象地域である中東遠医療圏の医療資源等の特性を踏まえたデータベースおよびテキストの作成を行った。さらに、作成した教材を用い、実効的な連携体制の確立と即戦力となる専門家育成を目指して、初期被ばく医療機関における訓練を当講座の主催により実施した（平成20年11月27日、掛川市立総合病院）。

（研究担当者：山岡 泰治）

2. 中東遠医療圏における日常医療の提供体制の構築に関する研究

中東遠医療圏は、医師数が全国比（人口10万人当たり）の6割弱であり、また医療提供機能の大半を公立病院が担っており、公立病院の勤務医不足が深刻化している。研究対象地域の公立病院を対象に文献および訪問調査に基づく分析を行い、経営の課題および病院の安定的な運営を図る上で障害となっている要因を明らかにした。さらに、研究対象地域における将来の患者動向に関するシミュレーションを行い、その結果をもとに病院運営の安定化に向けた連携体制のあり方などについて検討を進めた。

また、研究成果のアウトリーチに注力し、地域医療の中核を担う公立病院の経営改革が急務である現状を踏まえ、藤枝市立総合病院、市立御前崎総合病院および公立森町病院のそれぞれの経営改革委員会に委員として参画し、専門的見地から各病院の実態に即した助言・提言を行った。

（研究担当者：山岡 泰治）

3. 医師等の不足解消を目指しながら、中部地区懸案の来るべき大災害、東海地震対策の災害医療を研究しています。また地震・津波・火山噴火・大規模事故などあらゆる災害・事件を想定して、予防として地域医療システムの整備と日本の主な災害の教訓（課題）とその後の対策を生かすべく行政や地域住民と共に歩んでいます。その過程で例えば、わが国で近年大きな自然災害が発生した行政への聞き取り調査を平成20年から行っています。これまでに北海道・岩手・宮城・新潟・石川・兵庫の各県庁防災・医療担当者への聞き取り調査を終えています。また、学会における市

民講座で災害時を想定した行政、警察、自衛隊等との情報連携から、被災者支援、そして被災後数週間経った時点からの避難住民等への保健師等コメディカルと連携した活動を実践できる機会を設けています。

(研究担当者：古本 尚樹)

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 集団災害発生時の連携体制および中東遠地域における日常医療の提供体制の構築に関する研究
集団災害および日常医療に係る体制に関する研究は、地域の知的拠点であるとともに災害医療の中核的立場ならびに地域医療の指導的立場である本学が地域の求める専門人材育成や安全・安心な社会形成に貢献することに繋がるものである。

(研究担当者：山岡 泰治)

2. 現在、災害医療特に東海地震対策の医療・保健・福祉対策を構築するため、住民への意識高揚や専門家の育成、行政等の協力によりハザードマップや災害時のかかりつけ医制定などに尽力しています。社会調査を得意とし、平成20年からは我が国の主な自然災害被災地における行政の防災、医療担当者へ半構造化面接を行い、集約して東海地震対策にまとめています。この途中経過は学会ですでに発表したり、新聞でも多数取り上げられています。

(研究担当者：古本 尚樹)

15 新聞、雑誌等による報道

1. 山岡泰治：「この人」静岡新聞 平成20年4月19日
2. 山岡泰治：「被ばく医療の注意学ぶ」静岡新聞 平成20年11月29日
3. 山岡泰治：「浜岡原発近接病院で5年ぶり被ばく訓練」読売新聞 平成20年11月29日
4. 山岡泰治：「被ばく患者の処置訓練」朝日新聞 平成20年12月2日
5. 山岡泰治：「治療に専念できる環境を」静岡新聞 平成21年1月10日
6. 古本尚樹：「おはよう」～「病院への道」考えて～ 重中日新聞 平成20年10月7日
7. 古本尚樹：「合併の医療影響 北海道で調査」静岡新聞 平成20年12月1日
8. 古本尚樹：「保健・医療・福祉 サービス低下」北海道新聞 平成20年12月28日
9. 古本尚樹：「ベンチャーグランプリ」中日新聞 平成21年1月7日
10. 古本尚樹：「全国の被災地調査」静岡新聞 平成21年1月18日